

くすのきだより



令和8年1月7日
来迎寺小学校
1月号

手伝いたい！

校長 吉富 靖

明けましておめでとうございます。令和8年がスタートしました。子どもたちにとって、そしてご家族や地域の皆様にとって幸せな1年になるようお祈り申し上げます。

さて、タイトルにある「手伝いたい！」という言葉は、私が来迎寺小学校に勤め始めて以来、あいさつ以外に子供たちから発せられる言葉の中で、一番多くもらう言葉です。放課の時間、私が運搬や掃除、剪定などの作業をしていると、「何をしているの？ 手伝いたい！」と言い、時が経つのも忘れて手伝ってくれます。また、登校時に校門で保護者から預かった忘れ物を届けようとしていると、誰かが声をかけてくれて「じゃあ、私が届ける！」と言い、代わりに持って行ってくれるので、ほとんど私が本人に手渡すことはありません。

ある子供が私に、「校長先生、〇〇ってゲームしたことある？」と聞きました。ゲームに詳しくない私は、「ごめんね。したことないなあ。」と答え、「そのゲームでどんなことをしているの？」と問い返してみました。すると、その子供は、「チームを組んで戦っていてね・・・ファイト後に仲間を回復させる速度で他のチームに差をつけるんだよ・・・」と教えてくれました。その子供はゲームの中で味方をいかに早く助けるか、ということに熱中してるんだな。」ということを知り、ゲームの中とはいえ、その行為に感心しました。

写真は、6年生が学年目標「HER6」にちなんで作った掲示物です。一つ一つのコメント欄には、「手伝ってくれた」「応援してくれた」「拾ってくれた」「教えてくれた」など、助ける行為を称えるコメントがあふれています。

「手伝う」「代わりに届ける」「回復させる」など、助ける行為を率先して行うことができる子供は、相手の困り感や状況を察知し、相手のために自ら動くことができます。助けたり、助けられたりしながら、協力し合って問題を解決する力が育てば、それは、学校が育てたい「生きる力」です。

今年度、コミュニティ・スクールが始まりました。「学校の活動を手伝う」「子供の安全を見守る」など、地域や保護者の皆様にご協力いただくことが増えました。大人の助ける行為を見て、子供の助ける気持ちがさらに高まっていると感じます。

本年も、保護者や地域の皆様のご理解、ご協力、ご助言をいただきながら、よりよい学校づくりに努めます。どうぞよろしく願いいたします。

